

2014年度 人文・文化学群 国際シンポジウム

グローバル・ヒストリーとしての東アジア世界と古代仏教の世界 ～奈良南都仏教文化史をめぐる日米比較～

奈良時代の仏教文化をめぐる研究は、東アジア世界のなかで孤立するものではなく、グローバル・ヒストリーとしても重要な要素です。本シンポジウムは、アーモスト大学、ハーヴァード大学・及び同大学ライシャワー日本研究所、奈良国立博物館、立命館大学などに所属する方々をお招きして、日米の研究内容を比較しながら、新たな研究の可能性と高校生や大学生のみならず大学院生の研究・教育上の視野の拡大に寄与するために開催致します。

日 時 2014年12月13日（土曜日） 午後1時～5時20分
会 場 筑波大学総合研究A棟 110番教室
〒305-0000 茨城県つくば市天王台1-1-1
TXつくば駅下車 関東鉄道バス 大学中央下車徒歩1分

開会の辞 午後1時～1時15分
開催の挨拶 人文・文化学群長 伊藤 眞
開催の趣旨 根本 誠二

第一部 講演会 午後1時20分～午後2時50分
午後1時20分～2時
阿部龍一 「『聾瞽指帰』の再評価と山林の言説」
(ハーヴァード大学東アジア言語文化学部教授
・ Reischauer Institute Professor of Japanese Religions)
午後2時10分～50分
サムエル C.モース 「Early Japanese Buddhist Art and the Liberal Arts」 (日本語)
(アーモスト大学美術学部・アジア言語文明学部教授
・ Reischauer Institute Associates in Research)

第二部 討論会 午後3時～午後5時15分
課題：「グローバル人材養成の観点から奈良南都仏教文化史をめぐる日米の研究・教育環境の比較」
阿部 龍一 (ハーヴァード大学)
サムエル C.モース (アーモスト大学)
谷口 耕生 (奈良国立博物館)
本郷 真紹 (立命館大学)
谷口 孝介 (司会・筑波大学)
※進行 根本誠二 (筑波大学)

閉会の辞 午後5時15分～20分

連絡先

筑波大学人文社会系教授 根本誠二
nemoto.seiji.fw@u.tsukuba.ac.jp